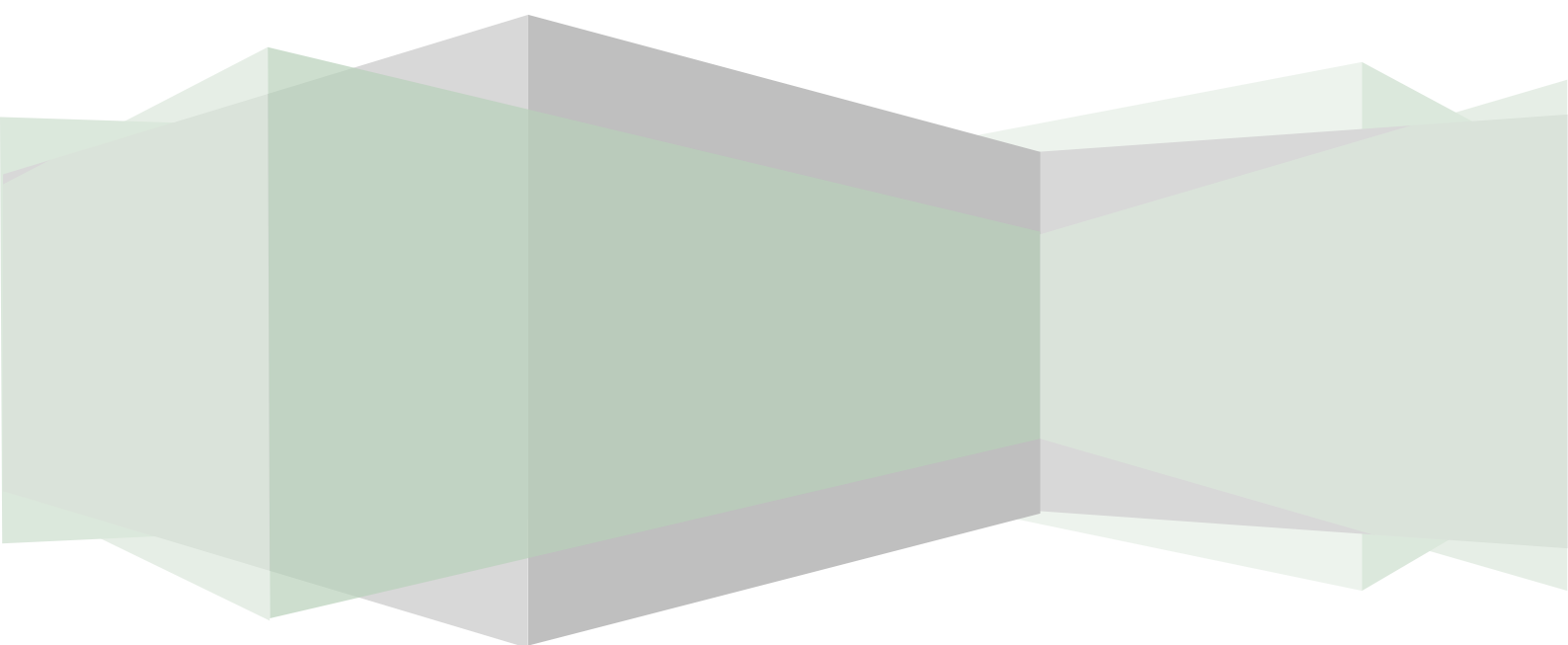


大分市 市民部 市民協働推進課

協働のまちづくり大賞 事例集

平成30年度



目 次

- 協働のまちづくり大賞について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

30年度 受賞事例

【協働のまちづくり大賞】

- **《志手自治会》**

- 三世代交流事業「秋の大収穫祭」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

【優秀賞】

- **《寺司一自治会・寺司二自治会》**

- 「鶴崎踊」を中心とした自治会活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

- **《NPO 法人いきいき安心おおいた》**

- 安全で安心な通学路を～「竹を厄介ものから貴重な資源へ」の取り組みから
生まれる～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

- **《森岡そうめん流し実行委員会》**

- 森岡そうめん流し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

- **《上市自治会》**

- 上市茶会は続く（春の萬弘寺協賛上市作品展・秋の公民館祭り芸能祭）・・ 10

- **《ふじが丘山手区自治会》**

- 「会報」の発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

- **《ふじが丘西区自治会》**

- ひろめよう地域との繋がり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

【奨励賞】

- **《久原五日会》**

- 毎月5日に集い、地域を活性化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

- **《明野高尾ふれんどまちづくり》**

- 「明野高尾ふれんどまちづくり」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

- **《三川下東自治会》**

- 勤労奉仕活動で自治区活性化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

- **《本宮山を守る会》**

- 本宮山の自然・景観・森林・歴史等の資源を活用した杜づくり・・・・・・・・ 22

- **《大道町5丁目自治会》**

- 子どもと高齢者が住みよい町づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

- **《横塚自治会》**

- きれいな地区「よこづか」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

協働のまちづくり大賞について

協働のまちづくり大賞は、自治会やその活動を支援する市民活動団体等が行っている住みよいまちづくりのための活動事例を募集・表彰する制度です。平成30年度は、13団体から応募していただきました。

応募のあった全ての事例をまとめた本事例集を、自治会に配布するとともに、大分市のホームページに掲載します。まちづくりの参考にさせていただきだけでなく、今まで自治会がどのような活動をしているか知らなかった人にも目を通していただき、関心をもつきっかけになればと思っております。

～テーマ別一覧～

【世代間交流】

- ◆志手自治会.....(大分西部地区 西の台校区)..... 2 ページ
- ◆寺司一自治会・寺司二自治会.....(鶴崎地区 鶴崎校区)..... 4 ページ
- ◆明野高尾ふれんどまちづくり.....(明野地区 明野校区)..... 18 ページ

【コミュニティの活性化】

- ◆NPO法人いきいき安心おおいた.....(大分西部地区 西の台校区)..... 6 ページ
- ◆森岡そうめん流し実行委員会.....(大分南部地区 森岡小学校区)..... 8 ページ
- ◆上市自治会.....(坂ノ市地区 坂ノ市校区)..... 10 ページ
- ◆ふじが丘山手区自治会.....(植田地区 東植田校区)..... 12 ページ
- ◆ふじが丘西区自治会.....(植田地区 東植田校区)..... 14 ページ
- ◆久原五日会.....(坂ノ市地区 坂ノ市校区)..... 16 ページ
- ◆三川下東自治会.....(大分東部地区 桃園校区)..... 20 ページ
- ◆本宮山を守る会.....(大南地区 判田校区)..... 22 ページ
- ◆大道町5丁目自治会.....(大分西部地区 大道校区)..... 24 ページ

【日本一きれいなまちづくり】

- ◆横塚自治会.....(大在地区 大在校区)..... 26 ページ

協働のまちづくり大賞

テーマ：世代間交流

三世代交流事業 「秋の大収穫祭」

(大分西部地区 西の台校区)

志手自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

志手地区は古くから柑橘生産の盛んな地区であったが、近年、周辺地域の団地開発、農業従事者の高齢化に伴い、多くの農地が畑からアパート等へと変わっていき、この20年で約300世帯増加している。そのような中で、住民間の交流や共助の体制づくりが志手地区としての喫緊の課題であった。平成18年、地区内の農業経営者から畑の無償提供の申し出があったことを機に、地域課題解決の助けとして町内三世代が農業体験を通じて、協力、活動、収穫を学べる行事「秋の大収穫祭」を開始した。

取り組み内容

一年を通し事業を行っている。

- ①11月：小麦種まき 1月：麦踏み
5月：小麦刈り
- ②5月：三世代による、さつま芋苗植え。
- ③10月：三世代交流行事「秋の大収穫祭」開催。

特に③「秋の大収穫祭」はマイクロバスでの送迎を行い、さつま芋の収穫、豚汁やごはんの炊出し、食事会を実施し、子どもから高齢者まで地区をあげての行事となっている。



活動状況としては、志手まちづくりグループ「志豊会」が中心となり、町内会・子ども会役員との打ち合わせを通年で行い、綿密な計画のもとに実施している。行事への参加案内は町内広報誌で全世帯に周知し、当日参加できなかった方には行事開催後、同広報誌で報告を行い、来年以降の参加を促している。

今年で13回目になるこの「秋の大収穫祭」は年を追うごとに参加者が増えており、毎回盛況のうちに行事を終えている。

①可能な限りの地産地消に努めており、麦の種まきから収穫までを地域住民で行い、できた小麦は「秋の大収穫祭」でだんご汁のだんごにして参加者みんなで食べる。このことにより、地元に対する愛着が深まっている。

②参加者は三世代、時には四世代となり、子どもから高齢者まで多世代がふれあう貴重な場となっていて、地域の住民間の交流が深まっており、災害時の協働や共助へと繋がっている。



③収穫したさつま芋は一カ所に集めてからひとりひとりに分配し、おにぎりやだんご汁も並んで配膳をうける。これは災害時の給食・配膳を想定したもので、これによりもしもの災害時に慌てない体制づくりができています。

活動の成果・今後の展望

・年々参加者が増えていることから「世代間交流や隣近所つきあい」が図られるとともに、三世代交流事業「秋の大収穫祭」を通して「ふれあいから助け合い」がさらに芽生えた。

・地区内には都会からの転入者も少なくなく、これまで子どもが土に触れる農業体験の機会がなく、保護者からこの行事に対する喜びの声を耳にしており、参加の呼びかけでなく町民自ら積極的に参加する姿が、本来のまちづくりの原点と感じている。

・店頭には野菜が豊富にならんでいる今日だが、子どもたちが芋苗植え・収穫の農業体験をすることにより、農作物の栽培苦勞を学び、一方で収穫の喜びを味わうことができた。

協働の作業（芋苗植え、芋掘り、芋の運搬、大釜炊出し、だんご伸ばし）により、親睦・交流を深めることができたが、さらに、この助け合いを災害時の共助につなげるとともに、安全・安心なまちづくりに寄与していきたい。

優秀賞（審査員特別賞）

テーマ：世代間交流

「鶴崎踊」を中心とした自治会活動

（鶴崎地区 鶴崎校区）

寺司一自治会・寺司二自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

鶴崎校区は、昔から栄えた港町で各種祭りが盛んに行われていた。特に「鶴崎踊」は、各町内が競う一大イベントであり、毎年8月の盆過ぎの土・日の2日間は鶴崎が熱く盛り上がる。

しかし、鶴崎校区は昔に比べて人口が減少し、後継者育成に苦慮しているところである。

取り組み内容

「鶴崎踊」は、永禄3年（1560年）頃、京都から舞子を招き、大友宗麟公の御前で踊らせたのが始まりといわれており、昭和61年、国の無形民俗文化財に選ばれた。

「本場鶴崎踊大会」は、毎年8月の旧盆過ぎの土・日2日間に盛大に開催される。踊りには「猿丸太夫」と「左衛門」の二つがあり、趣向を凝らした衣裳をつけた踊り子が、三味線、太鼓、横笛、尺八、胡弓などのお囃子に合わせて踊る様は、絢爛豪華である。



寺司地区は、普段は「寺司一自治会」・「寺司二自治会」とそれぞれ別の自治会として活動しているが、鶴崎踊・老人会・サロン・卒業入学を祝う会・青年部活動等、さまざまな行事を合同で行っているところである。特に「鶴崎踊」

に対する思いは大変熱く、平成 30 年度時点で、9 年連続で最優秀賞を受賞しており、10 連覇を目指しているところである。



自治会では、自治会だよりによる回覧や、子ども会、PTA、自治会女性部、青年部に対する参加の呼びかけにより、踊りや衣裳作りの参加者を募っている。参加者は、小学校低学年から 70 代、80 代までと年齢層は大変広く、毎回同じメンバーだけではなく、新規に参加する住民もいる。小さい子どもたちには、地域のお兄さん、お姉さんや地域の先輩方が踊りを教え、衣裳作りにおいても地域の先輩が新人さんに教えたりしており、地

域全体で、鶴崎踊の伝統を守り、継承しようとしている。

衣裳については、毎年、どのような衣裳にするのかを決めることにとても苦慮しているが、衣裳作りは、7 月上旬頃から 8 月中旬頃までの約 1 か月半の間、女性部や PTA などの方々が、暑い中、連日のように、食事が終わった 20 時頃から代わる代わる公民館に集まって頑張っている。

そして本番では、自治会住民の努力の結晶である衣裳を身にまとして、日々練習してきた一糸乱れぬ踊りを披露する。

長年のこのような取組みが、「地域コミュニティの活性」や「安全・安心で快適なまちづくり」に非常に役立っているところである。

このように、自治会青年部をはじめ、地域の皆さんが、伝統である鶴崎踊を愛し、次世代に継承していこうという強い思いを持っており、世代間交流・後継者育成を推進する力になっている。

活動の成果・今後の展望

子どもから高齢者までが集い、鶴崎踊の練習や衣裳作りを行うことにより、世代間交流を図ることができ、地域コミュニティの活性化に役立っている。

昨今、近隣の付き合いが希薄の中、このような三世代の交流が将来にわたり受け継がれていくことを望んでいる。このことが、もしもの災害時においても強い絆で結ばれた自治会力で苦難を乗り越えることができると信じている。

これからも自治会の垣根を取り払い、寺司地区の三世代の絆を育みたいと思う。

優秀賞

テーマ：コミュニティの活性化

安全で安心な通学路を ～「竹を厄介ものから貴重な資源へ」の 取り組みから生まれる～

(大分西部地区 西の台校区)

NPO 法人いきいき安心おおいた

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

1987年に「大分市立大分西中学校」が開校したことにより、駄原・高崎地区に、生徒たちが通学する道路が山林内に造られた。当時はミカン山等として環境が整備された通学路であったが、20数年が経過し、ミカン山や山林が放置されはじめたことで、道路周辺は放置竹林が一面に広がり、通学路は竹や草・雑木に覆われ、暗くなり、生徒たちにとっても危険な環境となった。

ミカン狩りを楽しむこともできなくなり、高齢になった地権者は困惑していた。そこで、快適で安全・安心な通学路を蘇らせようと、地権者及び有志でNPO法人を立ち上げ、平成23年より、活動を始めた。

取り組み内容

まず、駄原字善神王平の通学路周辺整備にとりかかった。会員は竹林整備が初めてという者も多かったが、経験者と共に作業したり、研修に出向いたりして技術を習得した。下校時刻に作業をしていると、生徒が「何をしているの?」「たいへんやな!」など声をかけてくれた。また、通学路周辺が整備され明るくなってくると、「ありがとう!」「明るくなったから、怖くなくなった!」と喜んでくれた。20年もの間、放置された竹林は、雑草・雑木、枯倒竹で藪化していて作業が非常に困難ではあったが、会員・ボランティア作業者は、生徒たちの期待に応えようと、熱い思いで作業に精を出した。

竹林内には、クヌギの木も多く成長していたので、これを切り倒して「椎茸栽培」を試み、「コマ打ち体験活動」を近隣自治会（高崎自治会、御幸自治会、下八幡自治会）に呼びかけ取り組んだ。また、伐採竹の良質なものは「竹炭」にし、これも「炭焼き体験活動」として近隣自治会に参加を呼びかけた。



伐採竹の多くは大分市の粉砕機を借用して竹チップに破砕したのち、土壌改良剤として活用した。しかし、粉砕機は稼働中、かなり大きな音が生じて近隣住民に迷惑をかけるので、「体験活動」の参加だけでなく、「地域交流会」を開催し、竹林整備が防犯上・生徒指導上重要であるのみならず、循環型持続可能社会に貢献すること、今後、「厄介もの」

になった竹を資源化していくこと等について周知した。これまで、講師を招聘し「竹や椎茸のこと」「3R運動」等についての研修をしたり、猪鍋、竹飯、新米おむすび等、自然の食材を活かした食べ物を調理して食したり、竹遊具制作をして、懇親・交流を図っている。

現在では、放置竹林問題をより早く解決するために、竹の大量利用・資源化をめざし、大学・企業・行政と連携して取り組んでいる。2017年は「はさま未来館」で、2018年は「J:COM ホルトホール大分」で「厄介ものの竹を貴重な資源として活用し、地域の活性化をめざす」をテーマにシンポジウムを開催した。2回とも100名を超す参加者で、大分県内はもとより福岡県、千葉県からの参加もあった。また、行政関係者、自治会関係者、森林・竹整備団体関係者の参加が多くみられた。

活動の成果・今後の展望

通学路周辺の放置竹林を整備することで、通学路をますます明るくて安全・安心な場所にする事ができた。また、整備された竹林の側に家が2軒も建築された。さらに、放置竹林内にあるクヌギの木を活用しての「椎茸栽培」「コマ打ち体験活動」、廃竹の「炭焼き体験活動」には、近隣自治会から保・幼・小・中学生から大人までが参加し、日本古来の里山を活かした暮らしや循環型持続可能社会を体感することができ、自然環境保全の大切さを学ぶことができたうえ、人とのつながりをつくることもできた。「地域交流会」では、竹は「厄介もの」ではなく「貴重な資源」であることの周知ができ、また、竹遊具制作、椎茸狩り等で懇親・交流する機会を設けたことで、地域コミュニティづくりに貢献することができた。

放置竹林とその整備保全の課題を解決するため、大学・企業・行政と連携し「竹の資源化」に取り組んでいる。「竹改質のバイオマス燃料」も企業と協働で商品化へと進んでいる。

大分市駄原・高崎地区で始まった「放置竹林」の整備保全活動で生まれる「暮らしやすい地域づくり」を、今後は大分市の各地で取り組みたいと考えている。

優秀賞

テーマ：コミュニティの活性化

森岡そうめん流し

(大分南部地区 森岡小学校区)

森岡そうめん流し実行委員会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

本取り組みは、平成20年に本地域内有志の懇談のなかで、現在、地域に大きな祭り行事がなく世代間の交流が途絶えつつあり、住民の交流が希薄になっているのではないかという意見が多く出たことから始まった。

事業内容を決定するにあたっては、懇談の時期が春先であったことから、早急に実行できること、地域のランドマーク的存在となっている碓山において住民が一同に集まって交流を図る場を設けること、季節と地産地消を考慮した結果、「そうめん流し」が妥当と判断し、子どもたちや地域の皆さんへの夏の最後の贈り物として決定した。

取り組み内容

そうめん流しは毎年8月最後の日曜日に実施しており、子どもから高齢者まで地域の人たちが一緒に楽しんでいる。また、そうめん流しの後には子どもたちを対象としたクイズ大会（内容は森岡校区に関すること。平成25年度まではミニ花火大会であった）や和太鼓の演奏も行っている（平成29年度の第10回記念式典で初演、平成30年度より本格実施）。

事業開始前には、地域内有志による実行委員会（平成30年度は22名）を立ち上げており、地域内外12団体の支援を受ける中、毎年度当初地域内より実行委員を募集して運営している。そうめんについては、地元産の大葉を練りこんだ「大葉そうめん」も含め1000食を使用している。具材についても地元産のニラや大葉



(双方とも地域内有志からの提供) をふんだんに使用するとともに、そうめんと共に冷凍したミニトマトやパイン(平成30年度は地域住民からぶどうの提供もあり)、菓子なども流している。

また、事業のマンネリ化を招かないよう毎年何か一つ新しいものに取り組むようにしているほか、第10回記念となる平成29年度からは、大分大学より学生サポーターを募集して7~8名の支援をいただいております。イベント当日設営途中の休憩時間には、地域住民との懇談会を設けている。加えて終了後は、学生から事業の主要なポイントについて良かった点や改善点及び広報などについてヒアリングを行い、次年度以降の取り組みに反映している。さらには、29年度より広報活動をより一層強化するためポスターを滝尾自治会すべてに回覧(1000部)するとともに、30年度は「森岡そうめん流し」独自のFacebook、Instagramも立ち上げて、多くの方々に地域情報を発信している。

活動の成果・今後の展望

参加者は天候により変動するものの、近年最低500人の来場者があり、平成30年は最終集計約600人と増加傾向にある。本年度は、初めて来場者へのアンケートに取り組んだ結果、上記の周知の効果からか、「初めての来場者と複数回目の来場者」、「地域内の来場者と地域外の来場者」が共に半々であったことが判明した。

また、同アンケート中の満足度に関する回答では、「とても満足」が90%を占めており主催者として喜ばしかった。さらに、自由意見については、そうめんに限らず多種多様なものが流れることに子どもから高齢者までの幅広い方々に喜ばれていた。

そうめん流しは地域イベントとして定着しており、過去に参加した人の中には地元在住で成人に達した人があるので、今後はそういう人たちを実行委員会に入れて運営参加者を増やすとともに、新しいアイデアを募りながらこの事業を継続していく考えである。



優秀賞

テーマ：コミュニティの活性化

上市茶会は続く（春の萬弘寺協賛上市 作品展・秋の公民館祭り芸能祭）

（坂ノ市地区 坂ノ市校区）

上市自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

上市地区は萬弘寺を中心とした伝統的歴史地域でありながら、長い間自治公民館がなく総会や役員会は個人の家を借りていた。

平成に入って区画整理事業が進み、これを機に積み立てをしながら土地を求め10年近くかかり待望の公民館を建築することが出来た。区画整理の終わった街の道路は広くなり美しい街並が誕生した。同時に離れた地区に行った人・新しく越してくる人・知らない人が増えてきた。地域の繋がりが希薄になる中、地域の人が集まり連携していくにはどうしたらいいのか、自治公民館をどのように活用していくのか模索する期間が続いた。

このような状況の中、公民館を中心に、地域の人々が集い繋がりを作る方法として文化芸能祭を立ち上げた。

取り組み内容

- ① 萬弘寺協賛上市作品展（5月18日～5月24日）
 - 自治会役員・地域の協力者・各組代表で実行委員会を立ち上げ、幼稚園・小学生とその家族を対象に親子スケッチ会を実施。
 - 大人の作品募集は回覧板で知らせ、絵画・写真・書・俳画・手芸・俳画・パッチワーク・木彫など幅広く募集し、特技を持った方の作品を募集。
 - 地区外から祭りに来た人の案内のため、萬弘寺広場から公民館まで看板を有効に設置。また、新聞の行事欄に掲載し、より多くの人に作品展をお知らせ。
 - 大分東高校から部活や授業で作った作品の参加があり、期間中は来場者でにぎわった。
 - 小物・花の苗配布等で来場者に感謝の気持ちを伝えた。
 - 開催中の1週間は実行委員・協力者が毎日運営にあたった（10:00～18:00）。
- [作品出品者 69名・来場者 640名・実行委員 34名（平成30年度）]

② 公民館祭り芸能発表会（11月第2日曜日）

○回覧板で出演者を募集（日本舞踊・カラオケ・3B体操・バンド・詩吟・コーラス等）。プログラムが出来たら全戸に配布し、周知。

○音楽家・唄家・マジシャン等のセミプロに出演を依頼し新しい演目を入れる。

○出演者の年齢層を広げるとともに、祭りの継承を願って子どもたちの参加を依頼（子ども会・小林拳等）。

○会場設営・司会進行・音響・当日の係を実行委員や地域の協力者が担当。

[出演者 59名・観覧者 180名・実行委員 30名（平成30年度）]

活動の成果・今後の展望

◎20年間継続しているため常連の方が多く、年ごとに趣向を凝らしているのを楽しみに会場に来る方もおり、地域に根を下ろした行事になっている。

◎出品する人（出演する人）・

観覧する人・裏方で会を支える人、それぞれの活動は、地域内外に人とのつながりを作り、地域の活気を生み出している。

◎作品展や公民館祭り芸能祭の行事を企画運営していく際、新しい息吹を取り入れながら時代の変化に応じた作品展（芸能祭）になるよう工夫をしている。

◎大分東高校は開校100年を迎えるにあたって地域と連携を広げる考えがある。来年度は芸能祭の参加も依頼したい。

◎引っ越してきた家族（毎年10戸増）の参加の取り組みも始まっている。

◎公民館活動を核とした自治会の連携と活性化が総会で掲げられて久しい。二つの行事を核にして高齢者の活躍・子どもの健全育成・地域人材の掘り起し等人のつながりを活発にしていきたい。

◎自治会の連携と活性化は「いざとなったとき助け合う街になる」ことを信じながら歩みを進めたい。



優秀賞

テーマ：コミュニティの活性化

「会報」の発行

(植田地区 東植田校区)

ふじが丘山手区自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

自治会活動の活性化を目指して、住民同士の交流を深め、相互に助け合う体制を築くことが課題となっていた。

そこで、平成28年4月から、住民が情報を共有するための「会報」を市報配付の半月毎に発行し、各種行事の復活及び充実を図るなど、地域活性化に取り組み始めた。

取り組み内容

自治会活動を活性化し、参加者を増やすには、全ての住民が地域の課題や行事などの各種情報を共有することが重要と考え、自治会長が「会報」を作成し市報配付の半月毎に発行している。総会・組長会議を開催した都度、同会議結果を「会報」に掲載し、住民との情報共有を図っている。

「会報」の発行によって住民の要望が自治会に上がりやすくなっており、自治会長等役員・組長等で迅速に対応している。具体的には、ゴミステーションの網の張り替え要望は、自治会役員及び組長等で直ちに対応している。道路に関する案件は、道路管理者（大分土木事務所・市道路維持課）と協議し、経過説明や対応結果等を次号の「会報」で必ず周知。防犯灯の電球交換については、担当者を指定しており、自治会役員を通じて依頼する体制をとっている。依頼を受けて3日以内には取替を行い、夜間の防犯に努めている。

また、大分南署敷戸交番と連携し、振り込め詐欺被害防止パンフレットも会報と併せて回覧し、注意を促している。



その他にも、以下のとおり自治会活動を行っている。

- ・ふじが丘山手区自治会公園愛護会を結成し、住民が交替でトイレ清掃、公園の草刈り、毎月2回のごみ拾いを実施。
- ・「自分たちの地域は、自分たちで守る」意識で、自主防犯パトロール隊山手区分隊員が交替で毎月5回以上パトロールし、子どもの見守り活動や地域警戒活動を実施。また毎年6月、研修会を開催し、大分南警察署敷戸交番所長による最近の犯罪情勢等の講話、防犯ビデオの視聴、情報交換等をしている。
- ・毎年9月、70歳以上の永年の活躍に敬意を表するとともに一層の健康を願って、敬老祝賀会を開催。
- ・地域住民が顔なじみの関係を深め、日常的な見守りや、災害などの緊急時の対応につなげることを目的として、毎年10月、「ふれあい広場」を開催。子ども達の故郷づくりや情操教育のためにも、かけがえのない機会となっており、平成30年度は約600人が会場を訪れ、「久しいな。」「元気していたね。」といった声が飛び交い、まさに、ふれあいの場、交流の場となっている。
- ・地域防災力の向上を図るため、毎年11月、防災訓練を実施。訓練は、消火器使用による初期消火訓練、要支援者救出・救護訓練、南消防署員による講話の受講、地震体験（車）、簡易担架の作製、人工呼吸法、炊きだし等を実施。

活動の成果・今後の展望

会報にて情報発信するとともに、各種行事の充実を図ることにより、以下のような成果が上がっている。

- ① 住民の助け合いの精神の向上。
- ② 公園清掃、ふれあい広場、防災訓練をはじめとする自治会活動に感心を持つ住民が増えて、行事参加者が増加。
- ③ 自治会行事を通じて、住民の親睦が深まった。
- ④ 防犯パトロール隊員が見知らぬ人に声をかけるなど、「自分たちの地域は、自分たちで守る」意識の高まり。
- ⑤ ゴミ出し等、環境美化について住民の意識向上。

少子高齢化や核家族化の進展などにより、自治会が抱える課題は多岐に及んでいる。こうした課題は個人の力で解決できるものではないので、自治会が行政と連携して地域住民を巻き込んで解決していかなければならないと考えている。自治会として、自治会活動に理解のある住民ボランティアをより多く募り、諸課題に取り組むこととしている。そのためには、今後も、住民の心に届く情報を発信するように努め、地域住民が仲良く暮らせる地域づくりに貢献したい。

優秀賞

テーマ：コミュニティの活性化

ひろめよう地域との繋がり

(植田地区 東植田校区)

ふじが丘西区自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

地域の高齢化が進み、かつ現役世代の地域離れが顕著であった。平成 29 年に自治会支援組織の改編をするなど現役世代の自治会行事や活動に参加しやすい環境を整えたが、依然として参加者が極めて少ない状態が続いていた。

近い将来、自治会の存立および形骸・枯渇化が危惧されるため、コミュニティの活性化を促進する必要があった。

取り組み内容

①転入者を対象とした懇談会の開催

この 2 年間転入してきた人たちを対象に参加を呼びかけ、併せて自治会の各役員、老人会、防災士、民生委員、パトロール隊、保護者会、クリーン推進委員にも参加してもらい、それぞれ 3 グループに分かれて昼食を兼ねながら地区の現状や取り組みを転入者に説明し、転入者からは地区に対する質問、意見を聞くなど気軽に話しやすい懇談会を開き、地域へ溶け込んでもらうきっかけづくりを行った。

②懇談会についての回覧版発行

この活動について、マスコミに大々的に報道され、これを活用し、地域住民の関心を高め、コミュニティの活性化につなげようと懇談会についての回覧版を新たに発行した。

- ・転入者は共働き、子育て世代が多いため、参加しやすい日曜日のお昼時に開催。また夫婦・子ども、乳幼児の同伴も可能とした。
- ・参加の呼びかけに関して、案内文を送るとともに、自治会役員が戸別訪問を

して開催の趣旨を説明、その後自治会長、副会長が再度訪問することで再度参加を促した。

- ・地域活性化活動のための予算を新たに計上。
- ・マスコミへの積極的な情報提供により報道されることで、地域住民の意識高揚につなげている。

活動の成果・今後の展望

- ・懇談会の開催をきっかけに、自治会活動へ関心を持つ現役世代が増加している。
- ・自治会の運動会は子どもから大人まで誰もが参加したくなり、楽しめるようなプログラムに変更したが、これにより現役世代が新たに 50 名ほど加わり、参加者が総勢 200 名を超え、世代間交流を深めることができた。
- ・世代間交流としてこれまで行ってきた「お花見」を「お花見懇談会 ふれあい懇談会」として開催をしたところ、幅広い世代の方が参加し、総勢 170 名を超えるものとなり、和やかなふれあいによって繋がりを深めることができた。
- ・報道機関を通じた広報によって、自治会の粘り強く、継続的な活動が住民に浸透してきている。
- ・自然災害等が多発し、今一度コミュニティの活性化が不可欠であり、そのためにも地域活動に参加しやすい雰囲気を推し進め、住みよい地域づくりにこれからも励んでいきたい。



奨励賞

テーマ：コミュニティの活性化

毎月5日に集い、地域を活性化

(坂ノ市地区 坂ノ市校区)

久原五日会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

当地区は、区画整理事業により人口は増加しているが、祭りなどの伝統行事に参加する人は少なくなりつつある。また、高齢化に伴い公園の除草作業等の共同作業が負担となる中で、相互に助け合う地域づくりが課題となっていた。そこで、地域住民を引っ張っていく実行部隊を結成・育成しているところである。

取り組み内容

実行部隊について、

- ①メンバーは40～70歳代で、職種は建設業、造園業、電気技師、鉄鋼業、農業、公務員OB、元営業マン、ガラス屋等多岐にわたり、機動力は抜群である。
- ②毎月5日に公民館で食事当番を決めて夜なべ談義を行い、取り組む事業を議論し、行動計画の確認。
- ③毎年1回の研修旅行を実施し、見聞を広める。
- ④メンバーの主力は、防災訓練、水路清掃を行う自主防災隊としても活躍。

取り組み内容として、

(1) 祭りの継承

- ①40年前から毎年の祭りを継承するため、子どもたちに太鼓や笛の練習を指導している。
- ②10年ほど前から練習の合間にソーメン流しを始めたところ、子どもたちに喜ばれ、子ども会の交流に大いに貢献している。
- ③昨年子どもみこし、子ども山車などを企画、実行した。子どもたちに大変喜ばれ、



祭りの参加者増加にもつながり、活性化が図られている。

④祭りの本番においては、実行部隊が中心的役割を担っており、祭りの伝統を支えている。



(2) 環境美化活動

①日吉原緩衝緑地や公園等の除草作業において、重労働である草刈り作業を担っており、愛護会の中心的役割を果たしている。

②ため池の堤防の草刈り、野焼きの実施を毎年行い、防災面においても貢献している。

③公民館周りの桜並木に花見用提灯の飾りつけをするなどして、住民に大変喜ばれている。

以上、祭りのみならず、地域の環境美化活動や防災活動等を支える主力となっている。

活動の成果・今後の展望

実行部隊は、地域の祭り、環境美化および防災面の主力となっており、地区コミュニティの活性化に大きく貢献している。

現在、会員は27名であるが、若手会員及び退職者の勧誘に努めており、会員は着実に増えているので、さらにパワーは増強していくと思われる。

奨励賞

テーマ：世代間交流

「明野高尾ふれんどまちづくり」

(明野地区 明野校区)

明野高尾ふれんどまちづくり

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

明野高尾自治会では、団地開発から40年が経過し、急速な高齢化とともに地域の活動や自治会運営にも支障が出始めてきた。一方で、若者世帯が少しずつではあるが、土地を購入し入居を始めている。

コミュニティの希薄化対策と世代間交流の必要性を強く感じるようになったことが、活動をはじめたきっかけである。

取り組み内容

「元気なまち みんなで つくろうえ」を合言葉に、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を目指し、ともに支えあう地域づくりを図る為、課題の調査や検討を行い「安心・活力・創造事業」の実現を目的として、5つの部会を設け活動を展開。誰もが気軽に参加できる活動である。

特に2つの部で活動実績が見えるようになってきている。

①-1' 子どもサークル部：子どもサークル「ほっぺ」

・若いお母さんから子どもや親の居場所を求める声があったことがきっかけで発足し、発足前からの活動で5年目となる（平成30年度時点）。

・運動の基礎的な部分を体験し健康な体づくりを行っている。講師は地域内在住の元体育教師で、マット・鉄棒・フープ等を使い、親子で楽しんでいる。

・豊かな心を育むため、季節のお楽しみ行事や本の読み聞かせを行っており、クリスマスケーキ作りやおもち等を親子で一緒に作って食べる。また、本に親しむことで落ち着いた時間を過ごしている。

①-2' 子どもサークル部：子ども広場

大分市の「地域多世代ふれあい交流事業」より補助を受け、高齢者と子どもた

ちの世代間交流を行っている。学習・読み聞かせ・遊び・夕食等を自治会や老人会、大分高校の生徒と一緒にやっている。

②コミュニティカフェ部：フレンドカフェ

地域住民の誰でも立ち寄れるカフェ。一緒に昼食やおしゃべりをしたりと、世代間を超えた交流の場となっている。また、月1回、食事メニュー等を決める部会を開催。



3つの活動を通し、これまで苦勞と感じたことはない。理解を得ることが難しい時もあるが、地域みんなで支え、支えられ、活動している。

活動の成果・今後の展望

上記の事業を通し、明野高尾自治会内の世代間のつながりが徐々に広がりつつあり、人と人の関わりの必要性を参加者は感じつつある。

また、若いお母さんたちが活動に加わり、運営者側の思いが次世代の若い人に浸透していることを感じている。

自治会が高齢化していく中、今後、地域内の住民をどう巻き込んでいくか活動を通し考えていく必要がある。現在取組みの進んでいない3つの部の事業については、今後、担当部会のメンバーが部会の充実や強化をめざし、高齢者の見守りやサポート事業をしていきたいと考える。

自分たちの住んでいる地域は自分たちで互いに支えあい、活性化していくことが必要である。そこに、市や県等が少し関わることで事業が円滑に進み、活性化にエンジンがかかる。まさしく、協働のまちづくりである。

「頑張るのではなく、楽しく活動する。」「多くの地域住民に事業を広める活動が必要。」「参加する子どもたちを通じ、高齢者にも今日行く場所があり、そこに自分の役割があることが重要。」

言葉でいうのは簡単だが、とにかくやってみることが大切である。

モデル地域となるよう市内の他地域や他市からの取材等を受けている。徐々に広まっていることを肌で感じる。

「明野高尾ふれんどまちづくり」の事業の取組みを、まずは、明野高尾から明野地域内の他自治会へ発信し、先は他地域にもよい影響を与えていければと考える。

奨励賞

テーマ：コミュニティの活性化

勤労奉仕活動で自治区活性化

(大分東部地区 桃園校区)

三川下東自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

地区の高齢化に伴う単身世帯の増加が加速し、また他県で小2の女兒が下校途中に連れ去られる事件があったことから、地域のつながり、情報共有、コミュニティの活性化が必須であると感じ活動を開始した。

取り組み内容

1. 「子ども見守り隊」「お年寄り見守り隊」の発足

下校時の子どもを守る「子ども見守り隊」、地域の高齢者を見守る「お年寄り見守り隊」を発足した（平成30年4月18日）。平成30年度現在、現役をリタイヤした者を中心に16名で活動している。



2. ごみステーションの一斉大改修（7基）

老朽化したごみステーションの改修をみんなでやろうとの声がたくさん集まり、各人が頭脳・知識・技術を持ち寄り、地域のボランティア延べ97名にて改修・塗装を行った（床板から防カラスネット、屋根塗装まで）。さらに、「掲示板」を手作りで製作し、ごみステーションに設置したことで、地区行事予定等の広報周知が効率的に行われている。

3. 三川下東通信の発刊

自治会の皆さんが何を望んでいるかを考え、隣近所の垣根をなくしたい、こんな町内にできたらいいな、という視点から、三川下東通信を発刊している。「若者も高齢者も皆が頑張っていますよ！」と知らせたいと同時に、色んな課題も

募集中！内容としては、直近の行事予定や中長期のビジョン（県や市への申請事項・状況など）、地域で活躍している方の紹介のほか、自治会の検討会（役員会）で出た地域の課題・実施中の事業の進捗状況等について掲載している。

4. 環境美化及び交通安全活動の実施

自治区内の安全安心の住環境の維持が目的。

- ・カーブミラー新設（5基）
- ・ボランティアによる視界不良の原因である樹木・雑草の剪定・除去
- ・ボランティアによる冠水対策として側溝堆積物の除去
- ・防犯灯の更新（LED化）全箇所完了
- ・原川堤一斉清掃（52名参加）



5. 住民同士の世代間交流

地域の旗振り役の尽力により、老人会・青年会・子ども会と各世代が一緒になりお祭りなどの行事に参加し、盛り上げ、地域の伝統を継承している。

活動の成果・今後の展望

地域のさまざまな行事・奉仕活動へ若者から高齢者まで世代を超えた住民が参加し、和気あいあいとした【暖かいやさしい地域づくり】の目標の達成に向けて邁進している。

皆がここに住んで良かったなあと思えるよう、これからも「人」「力」を大切にして地区を一層盛り上げていく。

組織は「人」の連がり！

継続は「力」！

奨励賞

テーマ：コミュニティの活性化

本宮山の自然・景観・森林・歴史等の 資源を活用した杜づくり

(大南地区 判田校区)

本宮山を守る会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

本宮山周辺の集落で過疎化・高齢化が進むと同時に、山地の荒廃・里道の崩落が進んだ。山地の荒廃を防ぐ一助となればと言う思いから、本宮山を守る活動を始めた。

取り組み内容

- ① 登山道の整備、標識の取り付け
(山火事防止、ポイ捨て禁止の看板の設置)
- ② 本宮山頂上の眺望回復のため樹木の伐採、展望台設置
- ③ 安田駐車場、平原駐車場の整備
- ④ 登山道や林道沿いの景観回復のための支障木の伐採
- ⑤ 登山道沿いの樹木調査、名札取り付け (約 70 種類 150 枚)
- ⑥ 山桜、もみじ等の植樹
- ⑦ 登山会の実施 (平成 30 年は、3 月 31 日と 12 月 2 日の 2 回実施)
- ⑧ 登山道や林道の点検登山 (月 1 回)
- ⑨ オオイタサンショウウオの生息地の保護
霊山のオオイタサンショウウオは市指定の天然記念物に指定されているが、本宮山周辺にも生息している。毎年側溝の水たまりに産卵することから、産卵時期の前に側溝の余分な土砂撤去等産卵場所の整備をしている。
- ⑩ 本宮山林道の側溝の土砂撤去
- ⑪ 林道や登山道の点検登山 (月 1 回)

◎本宮山を知ってもらう取組

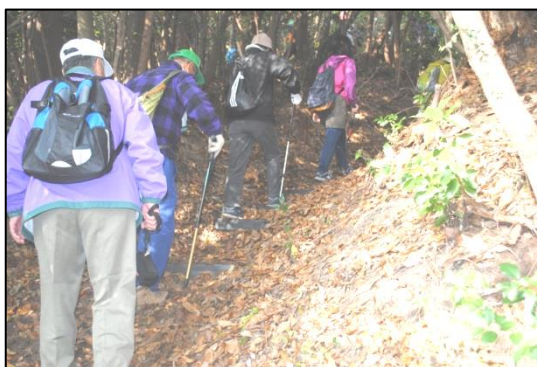
判田校区に住んでいるが本宮山を知らない、登ったこともない住民が増えたことから、子どもから高齢者まで参加できるイベントを開催した。

- ・老人クラブや小学校や中学校のPTA（父親部）と共同で本宮山の登山（歩こう会）を開催。
- ・林業水産課が行った「森林セラピー体験 in 本宮山」への協力。
- ・初日の出会を開催した（安田駐車場、本宮山頂上付近）。

◎登山者のマナーアップの取り組み

- ・山火事防止の看板の設置（消防局支給）。
 - ・ポイ捨て禁止看板の設置（環境対策課支給）。
 - ・植物の無断採取の禁止看板の設置。
- ※登山会参加者に無断採取の禁止を周知徹底している。

活動の成果・今後の展望



◎今年3月に行った登山会は、平原駐車場スタートと安田駐車場スタートに別れて行い、合わせて60名の参加があり、山桜を楽しみながら本宮山の登山ができた。また、12月に行った登山会も平原駐車場スタートと安田駐車場スタートに別れて行い、合わせて50名の参加があり、紅葉を楽しみながら本宮山の登山ができた。

◎本宮山を守る会の活動が認められ、平成28年3月、大分市では9番目の「森林セラピーロード」に認定され、地元住民の健康づくりの場、いやしの場となっている。

本宮山の歴史（西寒多神社は、1408年に上判田から寒田に遷座）や眺望の良さを多くの人に知ってもらうため、市の林業水産課や大南支所等と協力して情報発信を行いたい。

また、会員は46名いるものの高齢者が多く、活動人員は少なくなっている。新たな会員を発掘するため、「判田校区公民館だより」や地元住民の交流や学習の場である「本宮大学」を通じて地元の方々に本宮山の魅力や本宮山を守る会の活動を知ってもらう取り組みを進めていく。

登山道の点検を定期的に行い危険箇所の整備を今後も続け、登山者が四季折々の景観を楽しみながら登山ができるよう、本宮山を守っていききたい。

奨励賞

テーマ：コミュニティの活性化

子どもと高齢者が住みよい町づくり

(大分西部地区 大道校区)

大道町5丁目自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

当自治会は役員交代があまりないままに約50年が経過。そのため、活動にかかわるのは限られた方ばかりになっていた。また、地域住民の転入出が多く自治会活動に支障が出ていた。

この課題を解決するため、自治会の活動をよりわかりやすく地域の皆さんに伝え、それにより低迷していた自治会活動を活性化する目的で事業をはじめた。

取り組み内容

① 総会資料等の広報の充実を図った。

これまでは自治会行事・活動についての情報が少なく、活動に参加するのが特定の人に限定されていたため、年間を通しての町内会及び大道校区での行事・活動のわかりやすい資料を作成し、住民の皆さんに配布。住民の行事参加を呼び掛けている。それにより「おおみち竹明かり」等の行事参加者が増加し、地域の活性化へ繋がっている。

② もちつき大会の開催

活動が低迷気味となっていた「子ども会」と「老人会」に対し子ども達と高齢者が一緒に参加できるイベント「もちつき大会」を企画、青年部が中心となり開催した。子ども、青年、高齢者と世代間の親睦を深めるイベントとなっている。

③ 自治公民館の建て替え

老朽化した自治公民館を現在建て替え中。地域住民が気軽に集える公共の場、災害時の避難所等の公民館の役割について再考するきっかけとなっている。

その他、全体を通し、役員間での連絡を電話・メールを利用して密に取るようにしている。それにより住民へ行事ごとの細やかな参加の呼びかけが出来るようになった。また月に2回、自治公民館に役員が常駐している日時を住民に周知することにより、住民からの意見や質問を役員に直接伝えることができる体制となり、開かれた自治会となっている。

課題としては子ども会、老人会、青年会の会員減少、特に老人会については深刻な状況となっている。新築マンション住民への働きかけが課題となっている。活動内容もさらに魅力のあるものになるよう、検討している。



活動の成果・今後の展望

地域内での活動が活性化したことにより、校区運動会では初優勝を果たした(子ども会保護者が先頭に立ってがんばってくれた)。校区行事の「おおみち竹明かり」でも有志の女性達で結成されている「おおみち竹明かり食品係」が大活躍している。このように自治会の活性化は着実に成果を上げている。

今後の地域活動はみんなで協議しながら、活動の目的や意義をみんなが理解し、見える自治会活動を続けたいと思う。

誰もが役員や協力者になりたい、なれると思う自治会を作りたいと願って住民間のコミュニケーション力を高めたい。



奨励賞

テーマ：日本一きれいなまちづくり

きれいな地区「よこづか」

(大在地区 大在校区)

横塚自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

大分市が主催した全市一斉美化デーの活動をきっかけに、地区内をいつもきれいにしようとする気運が高まり、1998年から、偶数月の第2日曜日を地区の美化デーと位置付け全世帯参加を基本に参加することで始まった。

取り組み内容

1. ゴミ拾いの実施

偶数月の第2日曜日に各世帯から1名参加してもらい、道路、公園のごみ拾いを行っている。

2. 大在地区花いっぱい運動

大在地区花いっぱい運動の一環として、春と秋に地区内の街路樹の下に花を植えて育成活動を行っている。

3. ボランティアによる花の育成

一部の街路樹の下にはボランティアの地域住民が一年中花の育成活動を行っている。



全世帯1名の参加としているが、強制ではなくできる人が気軽に参加できる体制に心がけている。当日忘れている人のために近所で声かけも行うことにより連帯感の醸成にも役立っている。

加入世帯300戸のうち190人が毎月参加している。

活動の成果・今後の展望

【活動の成果】

転入者が多い地区であるが、活動に参加したことがきっかけで、地域の現状や課題などを話すことができ、地域に溶け込みやすくなっている。

【今後の展望】

美化活動の取り組みは20年が経過していることから、実施する都度に住民へ広報する必要はなく定着しているが、体育祭や球技大会などの地区行事への参加者をどうやって増やしていくか、今後の課題となっている。



平成30年度 協働のまちづくり大賞



問合せ先

大分市 市民部 市民協働推進課

電話：097-537-7251